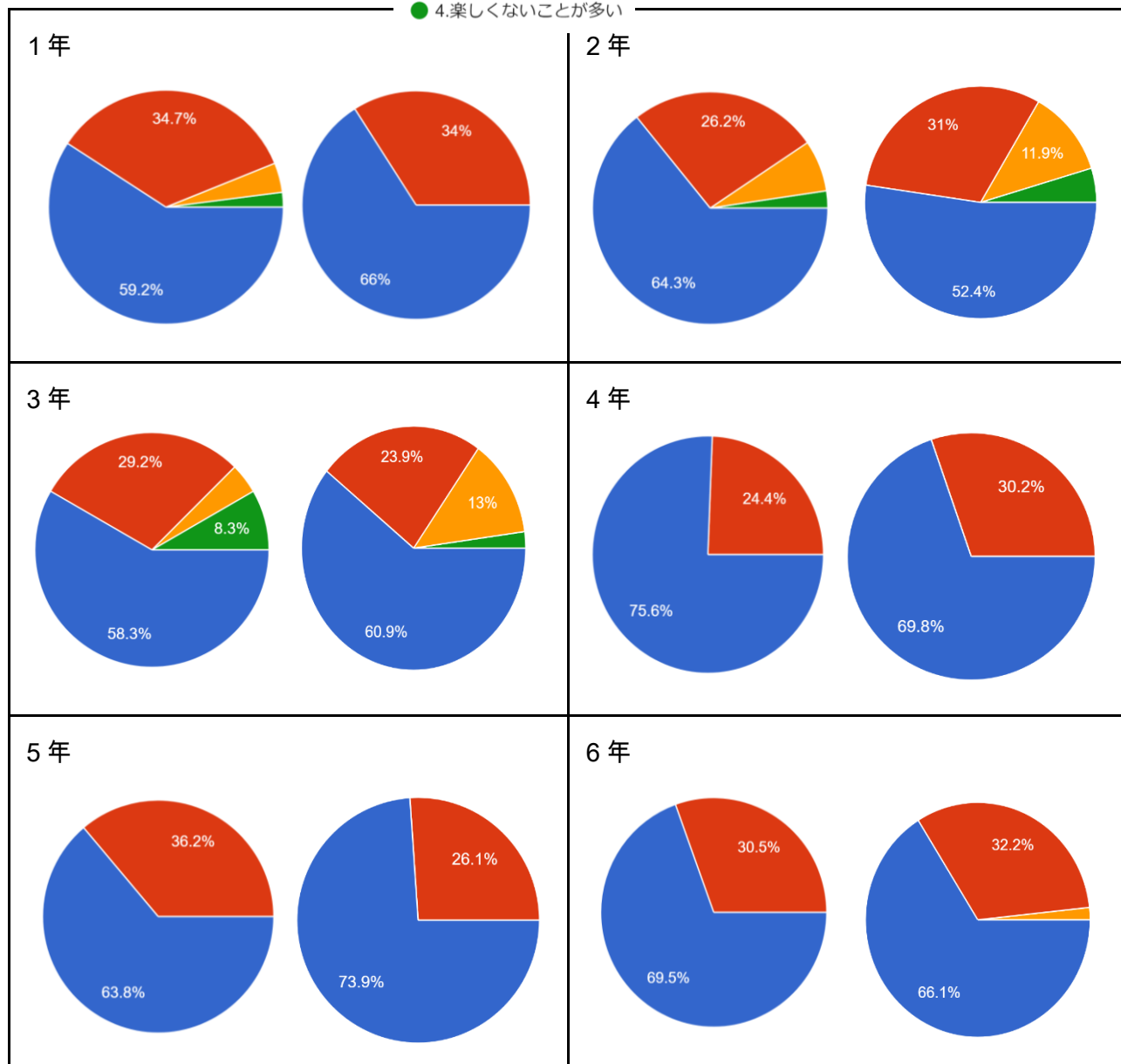


児童アンケート結果とまとめ

グラフは、左が前期・右が後期になります。

問1 学校は楽しいですか。

- 1.いつも楽しい
- 2.だいたい楽しい
- 3.あまり楽しくない
- 4.楽しくないことが多い

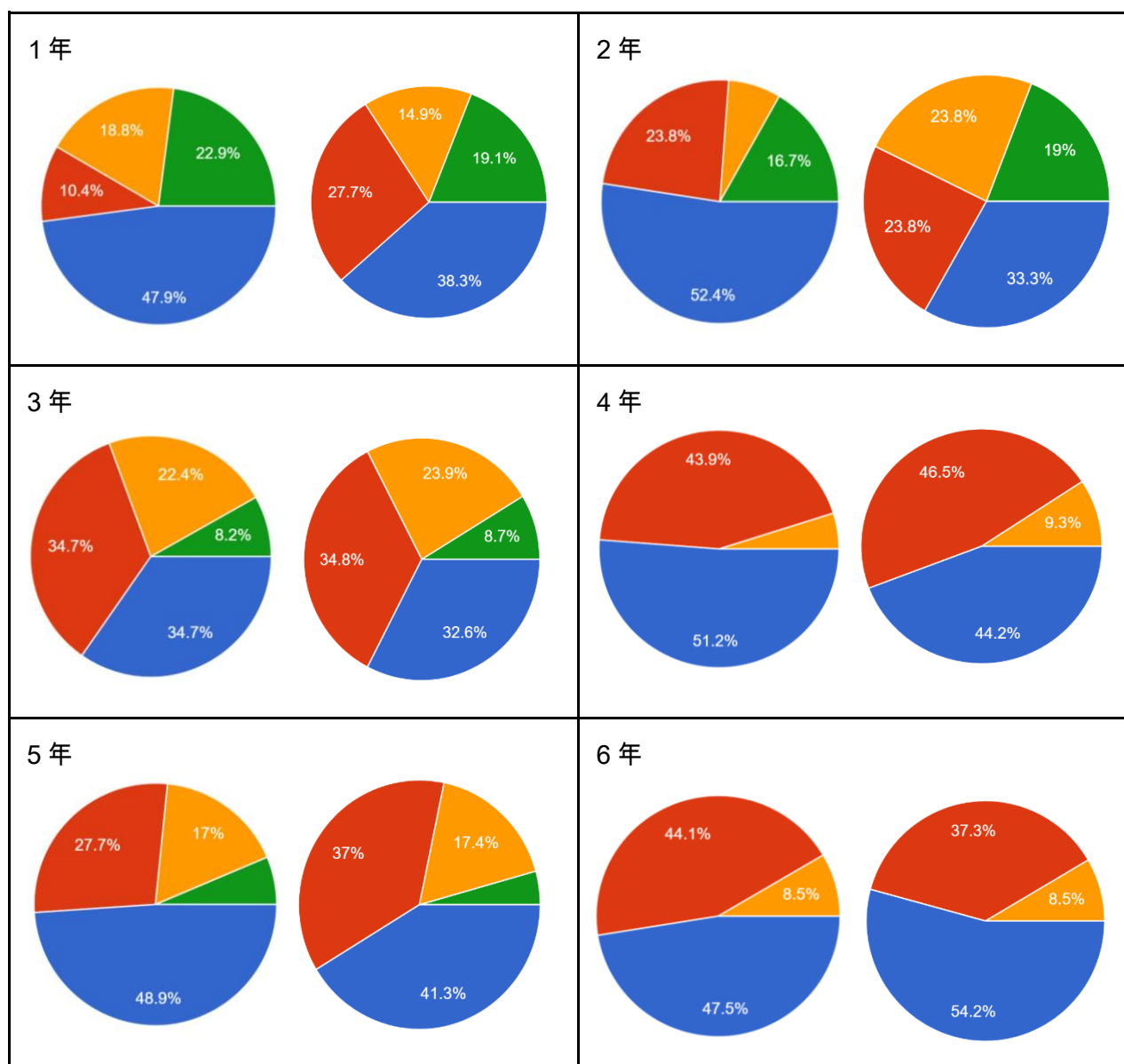
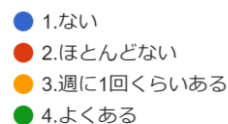


【まとめ】

- ・「いつも楽しい」「だいたい楽しい」と肯定的な回答が全校で94.4%であった。
- ・「あまり楽しくない」「楽しくないことが多い」と否定的な回答は5.6%で、割合的には前期とほぼ同じである。否定的な理由として、「友達に嫌なことをされる・言われる」(2・3年)が一番多い。以降「勉強が苦手」(2・3年)「たくさんの人といるのが苦手」(2・3・6年)「授業が退屈」(6年)「学校の決まりが厳しい」(3年)「先生に怒られる」(3年)となっている。

- ・「友達に嫌なことをされる・言われる」については、「いじめアンケート」でも対応しているが、今後も継続観察を要する。また、自己肯定感を高める授業づくりや学級集団づくりを意識的に仕組んでいきたい。
- ・「たくさんの人というのが苦手」な子についても、日常の様子や表情の変化を見落とさず、時々その子の気持ちを聞くなどして対応していく必要がある。個に応じた対応を必要とされる場面では、引き続き適切な対応を行なっていく必要がある。

問2 学校へ行きたくないと思ったことがありますか。



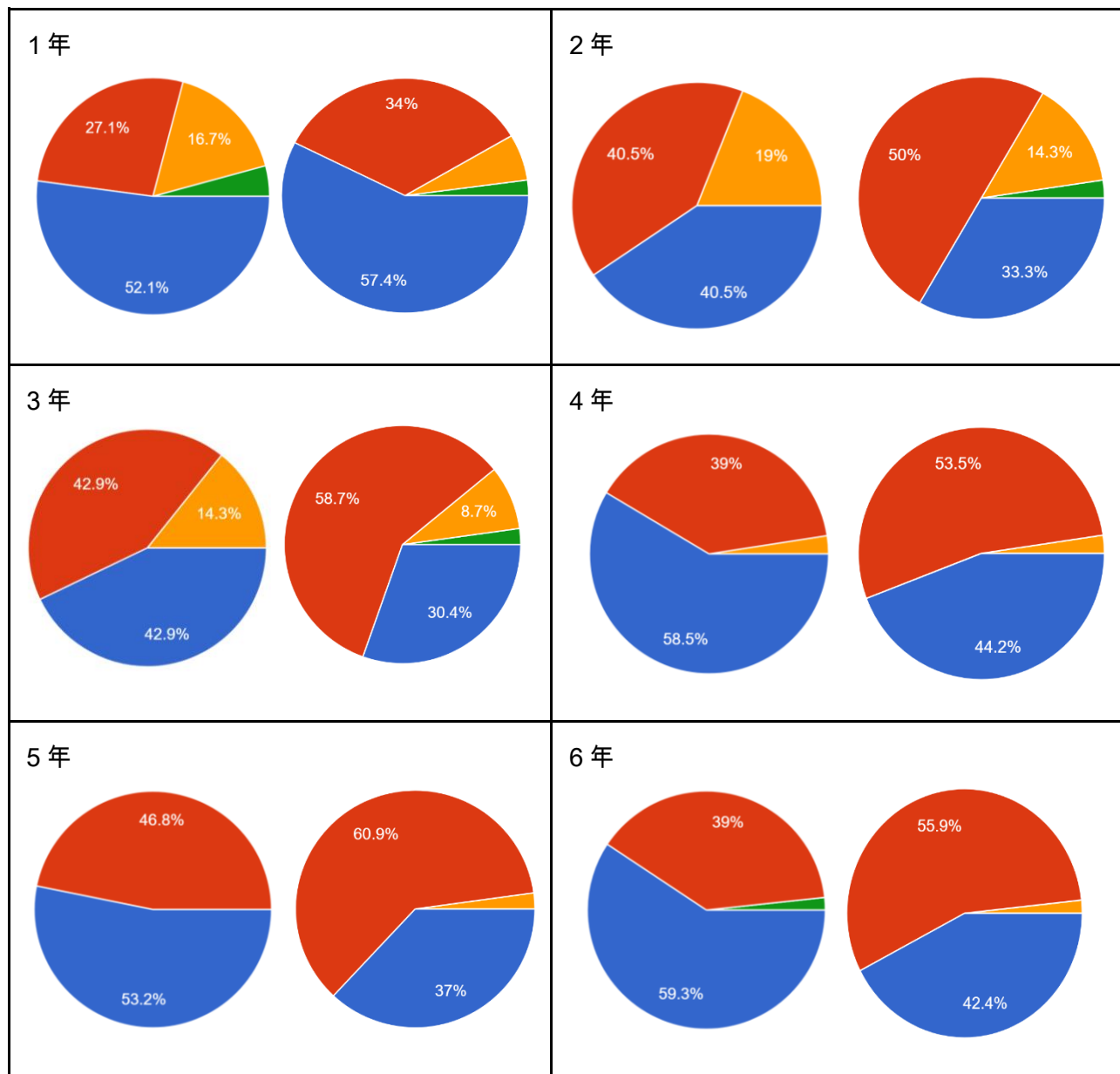
【まとめ】

- ・学校へ行きたくないと思う時が「ない」「ほとんどない」と肯定的な回答をしている児童の割合が、90%を超えている学年は4年生と6年生である。

- ・ 1～3年生で「週に1回くらいある」「よくある」と否定的な回答をしている児童の割合が高い。
- ・ 否定的な回答をした児童の理由として、低学年では「友達と喧嘩をしたり気まづくなったりしたから」や「苦手な授業あるから」が多く、高学年では「眠いから」や「休み明けの月曜日など」が多かった。
- ・ その他の理由として「習い事で疲れた」とか「悪口を言われた」といった理由を挙げる高学年児童もいた。
- ・ 学級内における人間関係づくりや、楽しくわかる授業の実践など、学校の力で解決できる問題については教員も改善に努めていきたい。一方、家庭での生活習慣やゲームやSNS等の依存も理由として挙げられている。引き続き、学校保健目標にもあるように「早寝・早起き・朝ごはん」の取り組みやゲームやスマートフォンの使い方について、学年だよりや保健だより等で家庭へ協力を呼び掛け、保護者の協力を得られるようにしていくことが求められる。

問3 学校の勉強がわかりますか。

- 1.よくわかる
- 2.だいたいわかる
- 3.あまりわからない
- 4.わからない

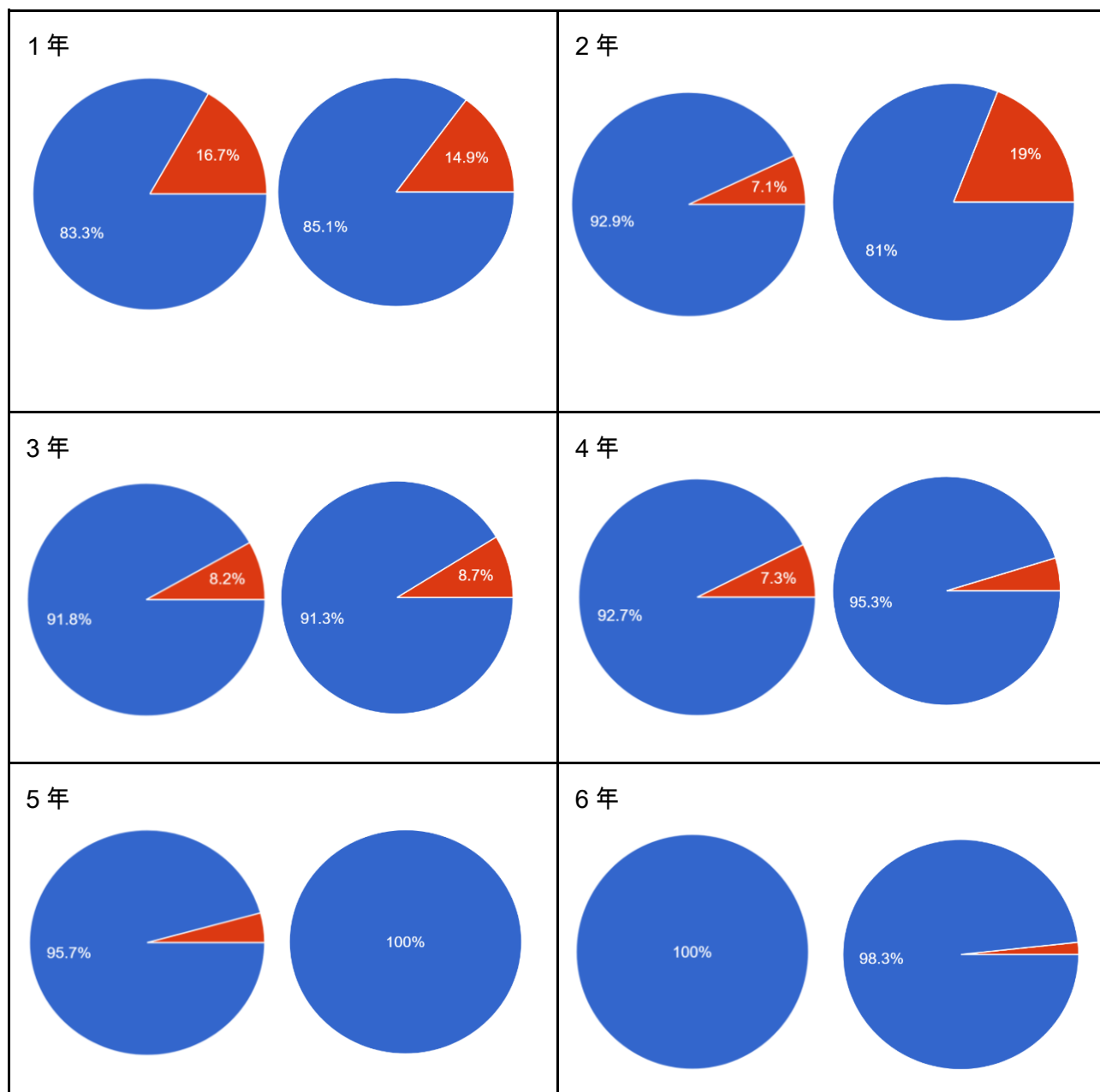


【まとめ】

- ・学校全体でみると約93%の児童が、学校の勉強が「よくわかる」「だいたいわかる」と肯定的に回答している。（前期と同じ割合）
- ・「あまりわからない」「わからない」と答えた児童は、約7%で低学年に多い。
- ・低学年の学習の基礎の上に、高学年の学習が展開されていくので、低学年からの学力の定着が大切になる。そのためには、「わかる授業」「楽しい授業」「できたと実感できる授業」により主体的に学ぶ意欲が高められるように全職員で意識して実践していきたい。
- ・子どもたちが自己肯定感を高め、やる気に満ちた学校生活を送れるよう、まずはOJTにより教員の指導技術を向上させていきたい。また「学習内容がわかる」と実感できる授業実践を通して、子どもたちの学力の向上に結び付けていきたい。

- 1.いる
- 2.いない

問 4 困ったときに相談する人がいますか

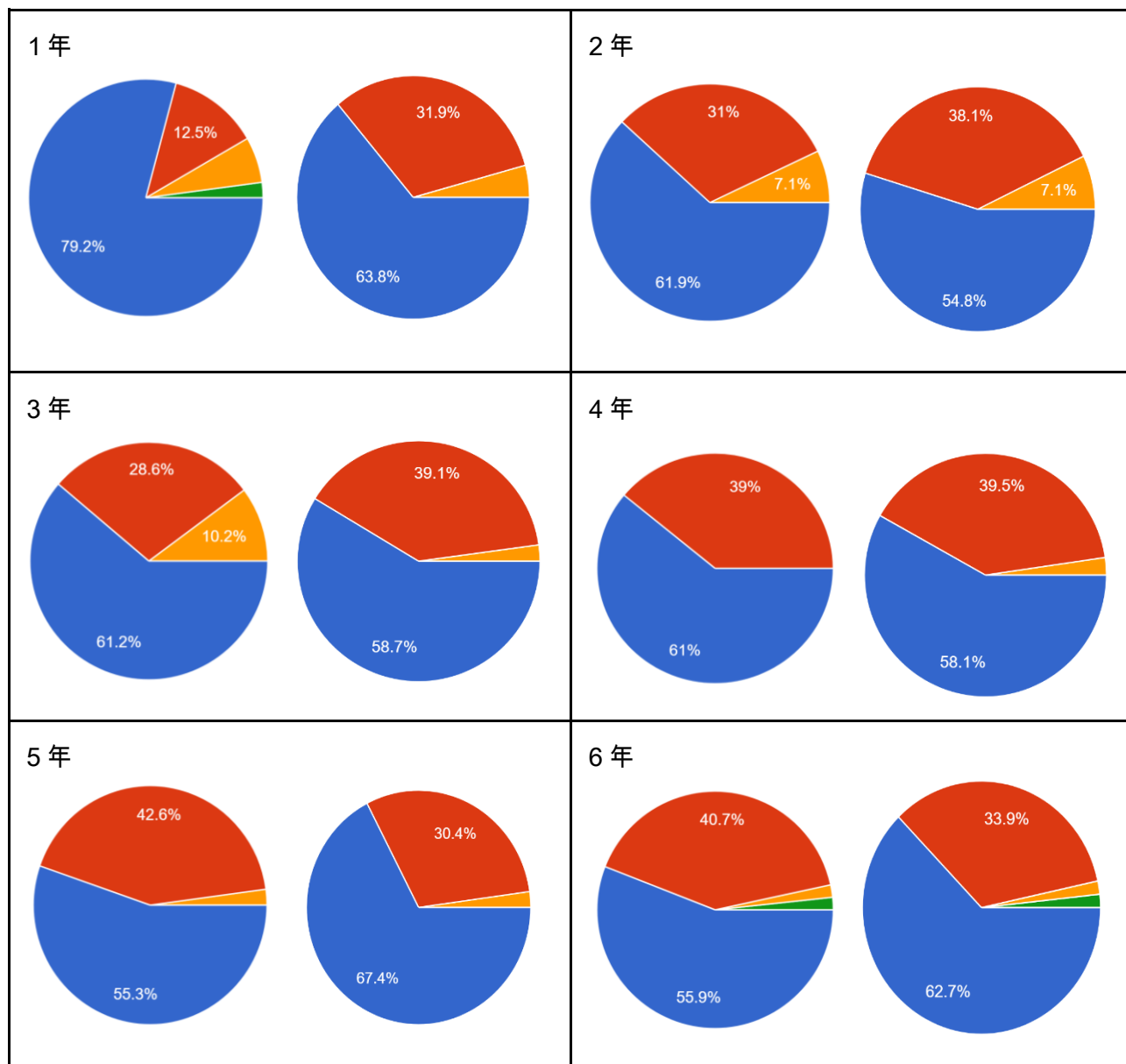


【まとめ】

- ・全体では約 92% の児童が「いる」と答えている。
- ・相談する相手が多いのは、どの学年も「父母」「友達」「先生」である。中でも「父母」に相談すると答えた児童の割合は、とても高かった。そして、高学年になるにつれ、「友達」に相談する割合が増えている。
- ・また、「いない」と答えた子を明らかにし、普段の様子を気かけたり、場合によっては養護教諭やスクールカウンセラーとの面談等も取り入れたりしていくことも考えていきたい。

問5 しっかり掃除できましたか。

- 1.よくできた
- 2.できた
- 3.あまりできなかった
- 4.できなかった

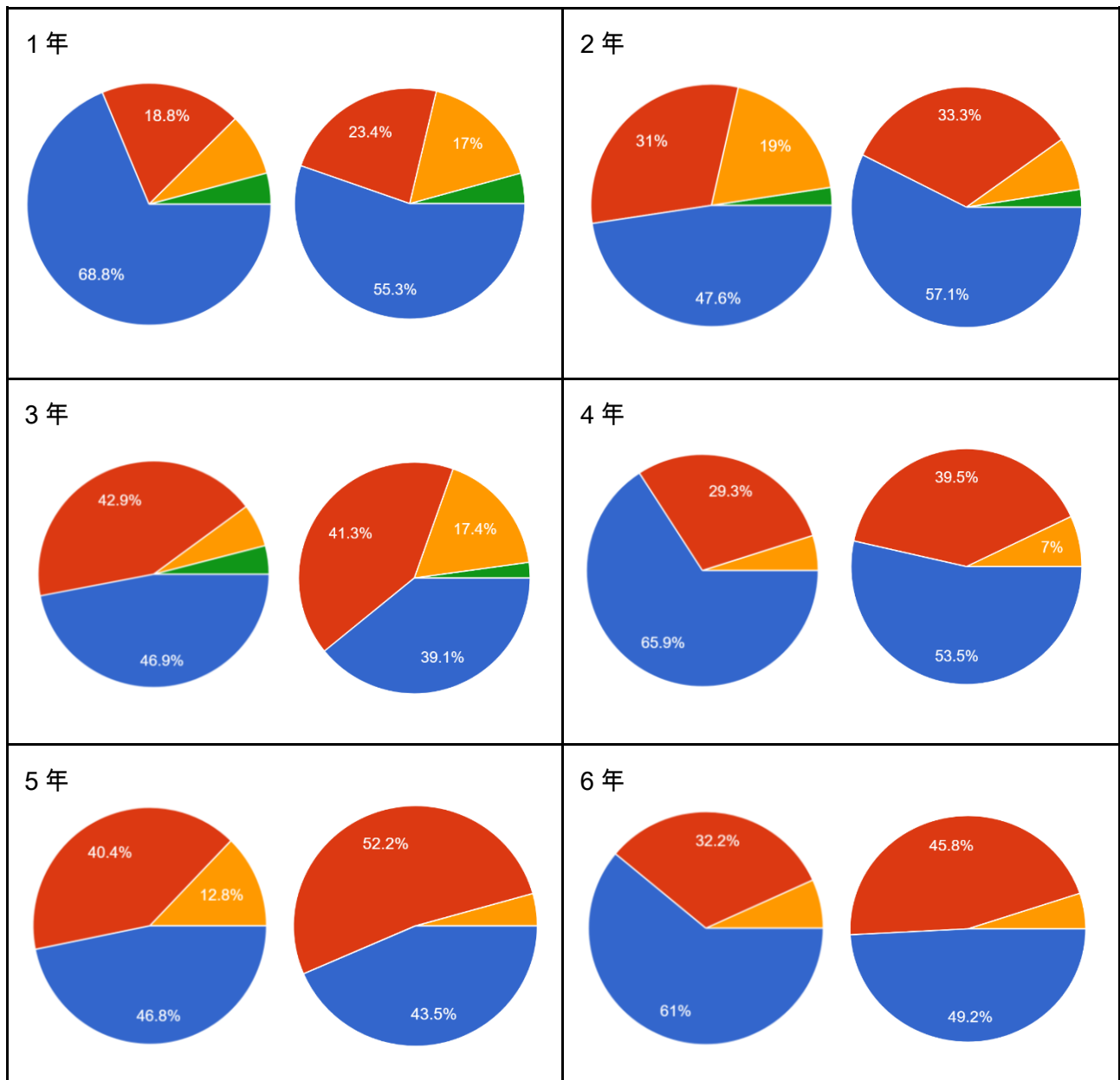


【まとめ】

- ・どの学年の子どもたちも、比較的掃除をよく行っていると評価している。校舎内を回っていても、よく取り組んでいる姿を見ることができる。
- ・清掃時間の開始時刻と終了の時刻を全校で守るようになり、全校一斉に清掃に取り組む姿が見られるようになった。前期の「自己評価」を経て改善した成果が見られた。清掃の時間は、全校で一斉に取り組むのが良い。
- ・これからも、引き続き、子弟同行でそうじの指導に当たっていきたい。

- 1.よくできた
- 2.できた
- 3.あまりできなかった
- 4.できなかった

問6 進んであいさつができましたか。

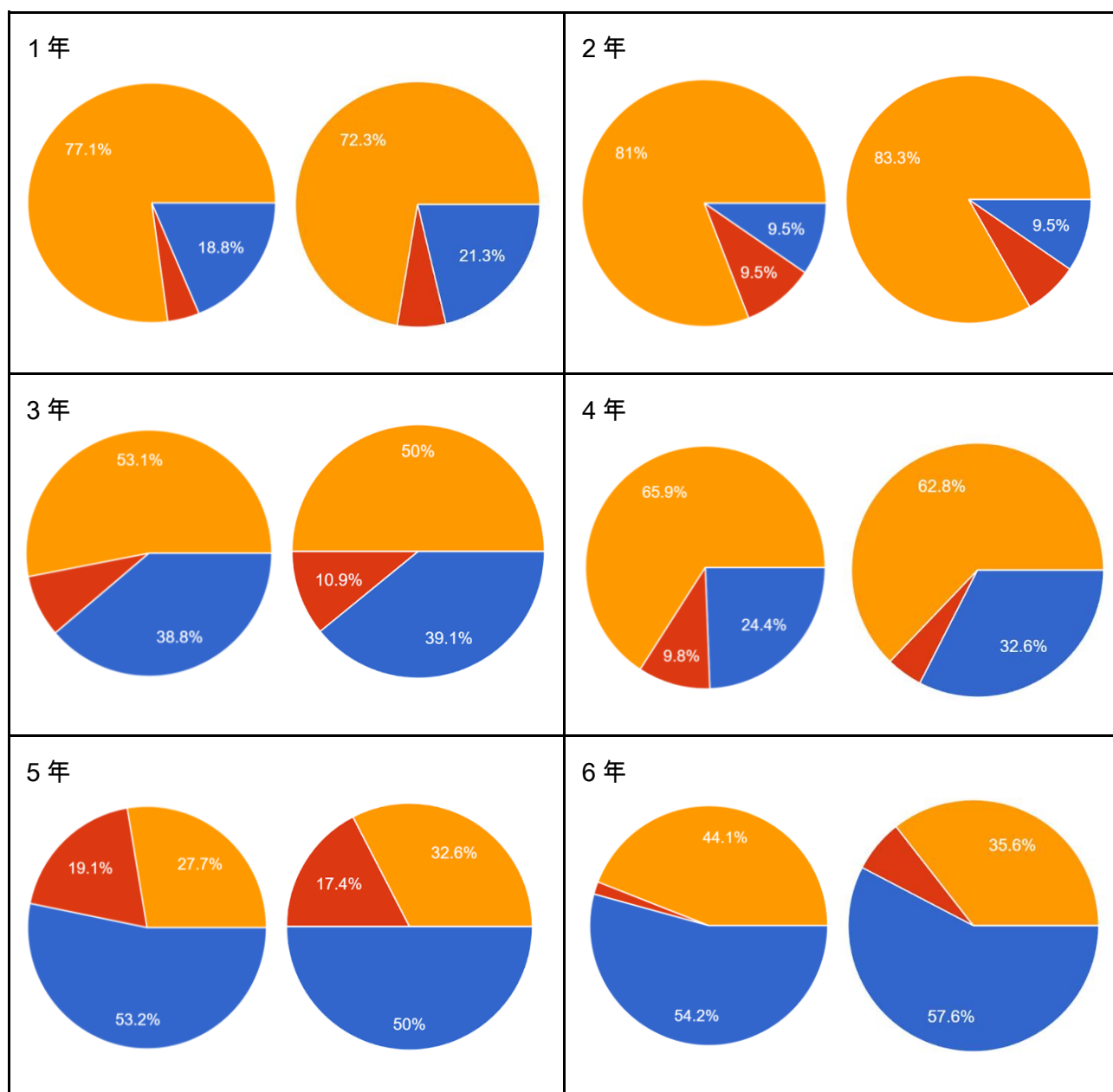


【まとめ】

- ・前期に比べ、あいさつを「よくできた」「できた」と答えた子の割合が上昇した。
- ・先生方の指導と同時に、児童会の取り組みも成果をあげている。互いに評価し合う良い取り組みであり、月ごとに「あいさつに関する目標」を定めていることも、マンネリ化を防止する意味でも効果がある。
- ・登下校時や廊下ですれ違う人、さらに、来客への自然なあいさつは日頃の指導や実践が重要である。引き続き指導を続け、教師もさわやかなあいさつを心がけていきたい。

問 7 携帯電話（スマホ）を持っていますか。

- 1.自分のをもっている
- 2.兄弟姉妹で一緒のものをもっている
- 3.もっていない

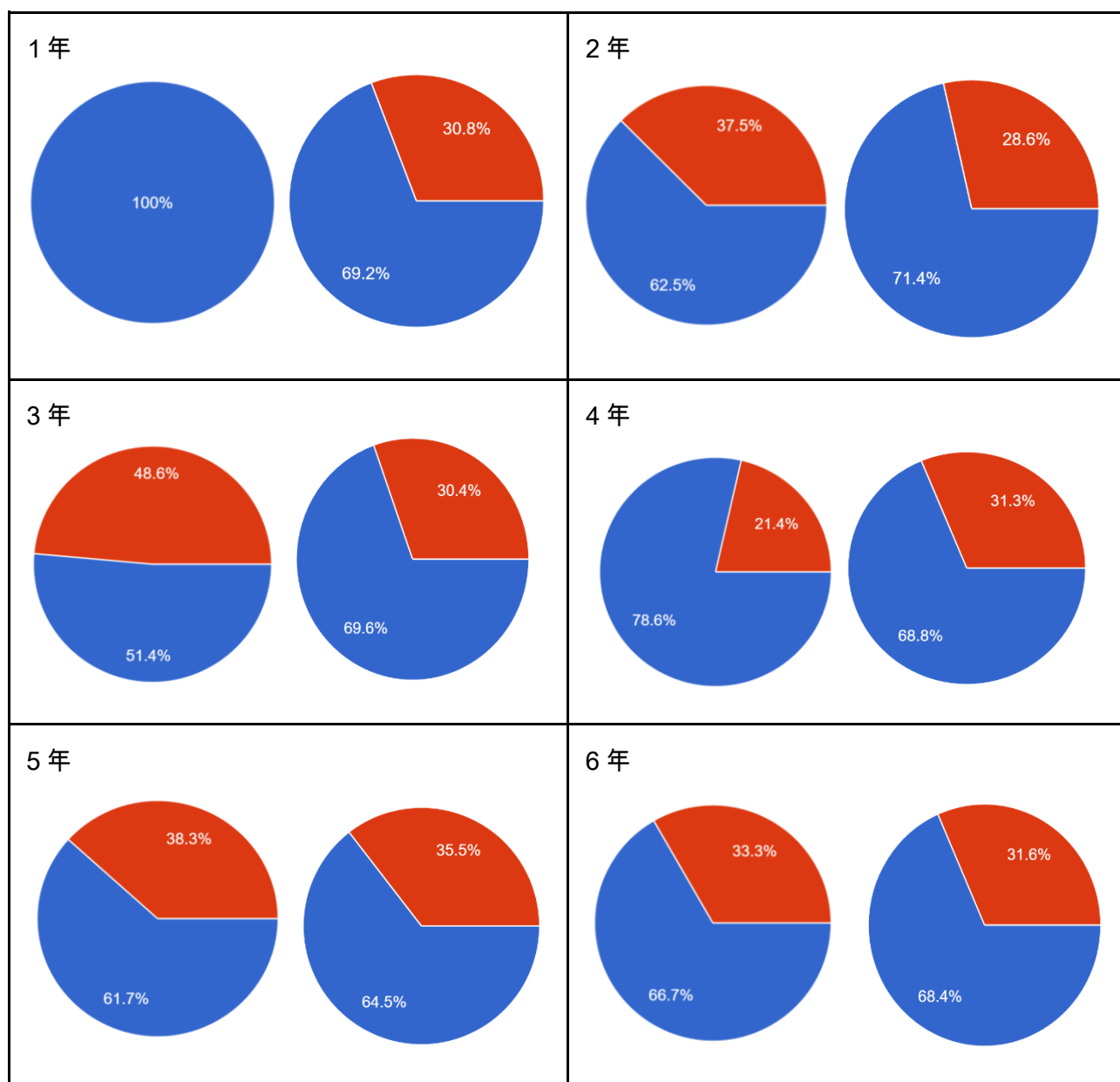


【まとめ】

- ・携帯やスマホの所持率は年々上がり、低年齢化していくことが予想される中、本校の1・2年生の児童も所持している子の割合が増えてきている。
- ・課金やLINEなどによるネットトラブルが危惧される。
- ・児童が購入することはできないので、「持たせる必要があるのか」「正しい使い方を理解していて、正しく使うことができるのか」「約束はどうするのか」等、携帯・スマホの購入時における管理面については保護者の指導力を必要とするところが多い。学年だよりや生徒指導通信等で呼びかけていく必要がある。

問 8 持っている人は、親とルールを決めていますか。

- 1.決めている
● 2.決めていない



【まとめ】

- ・所持している児童のうち、ルールを決めていると回答した児童が70%程度である。今後も、機会あるごと（学年部会や生徒指導通信等）に、保護者へもお願いしていきたい。
- ・決めているルールで多いのは「使って良い時間を決めている」「連絡を取って良い相手が決まっている」「勝手にアプリをダウンロードしない」となっている。
- ・今後は、子どもたちの一人一台端末の使用とも関わって、学年に応じた情報モラルを身に付けさせていくことが求められている。定期的に、指導していきたい。

- いじめや不登校に関する悩みや問題行動等，児童からの危険シグナルを察知し，児童の自己肯定感を高める実践や指導をしていく。また，「SOSの出し方に関する教育」を取り入れ，相談の仕方や相談する人や機関があることを教えていきたい。
- 生活習慣や規律について（あいさつ・清掃等）は，日々の積み重ねが大切である。教師が手本となって示したり指導したりしていきたい。さらに，家庭と課題を共有しながら，連携して身に付けさせていきたい。
- 携帯電話やスマホにおいては，学年に応じた情報モラルを身に付けさせていくことが求められる。これまでの「トラブルベースの情報モラル教育」に加え，自律的に考え行動する力を身に付けさせる「活用型情報モラル教育」が必要になってくる。